

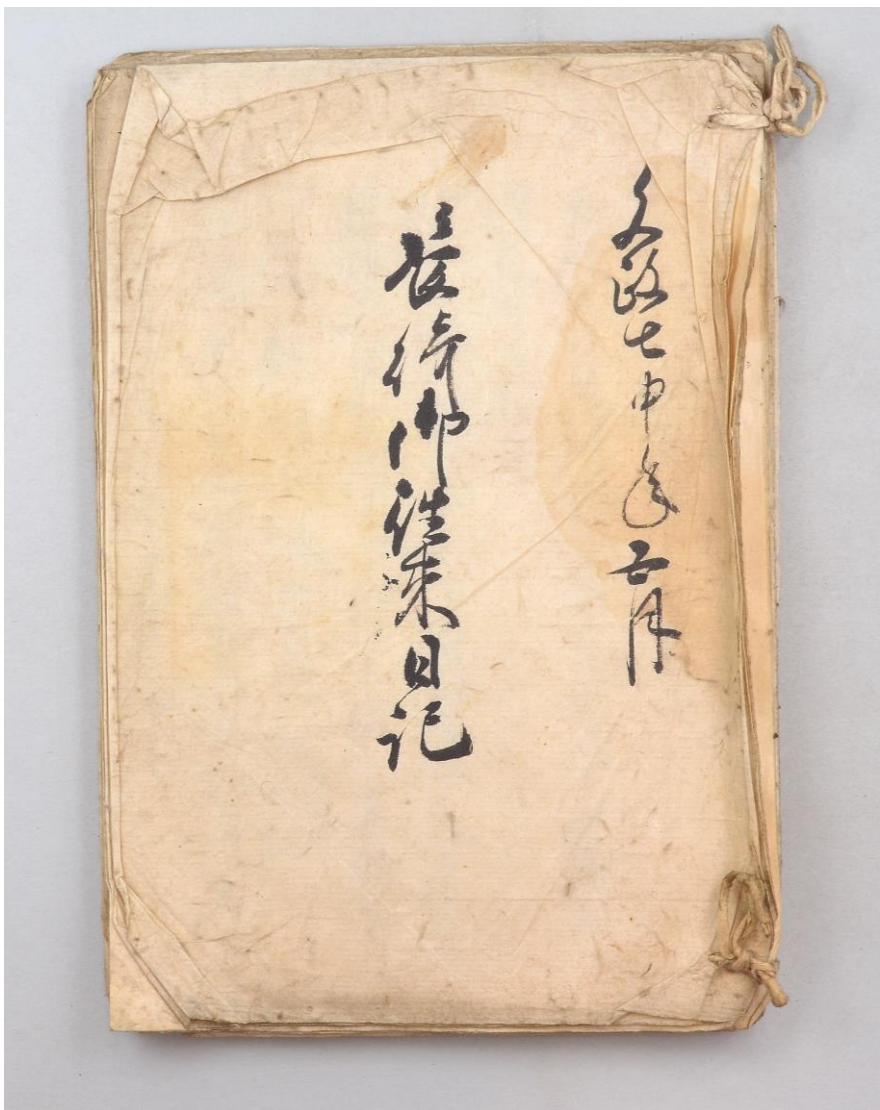
令和三年度 古文書講座テキスト

小城市立歴史資料館

(表紙)

文政七申年五月

長崎御往来日記



五月十一日

晴降懸ケ

一 今曉七ツ時御供揃二而六ツ半時過頃より長崎表江
御発駕被遊候

一 右二付御親類御家老番頭桜岡詰役人侍切並
村崎卜也為御暇乞御礼場所例之通名披露

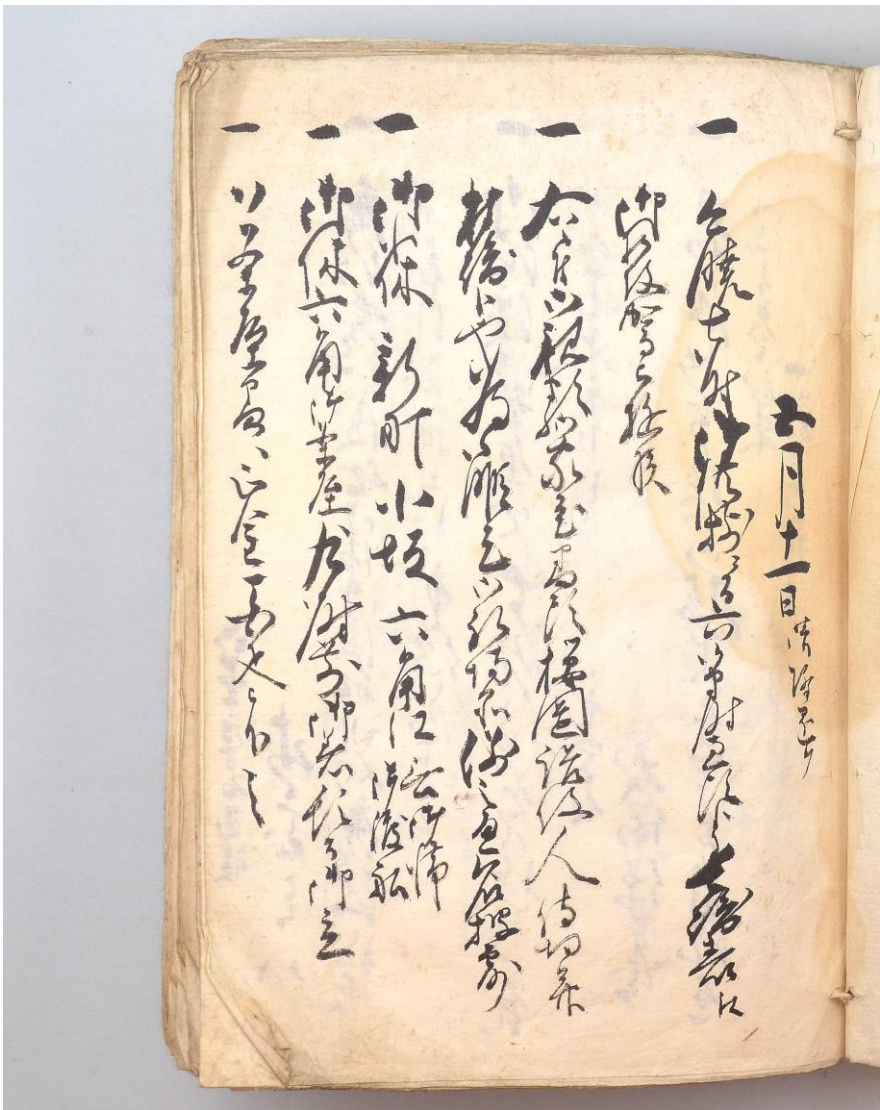
一 御小休 新町 小坂 六角江 無御滞御渡船

一 御休六角御茶屋へ九ツ時前御着、頓而御立

一 御茶屋番へ正金百疋被下之

百疋 二分

四分 二分



白雲山石室

少正之八

一 廣南寺 廣南寺在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里

一 廣南寺 廣南寺在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里

一 廣南寺 廣南寺在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里

丹波寺 丹波寺在丹波縣南十里 丹波縣在丹波縣南十里 丹波縣在丹波縣南十里

松島寺 松島寺在松島縣南十里 松島縣在松島縣南十里 松島縣在松島縣南十里

田中寺 田中寺在田中縣南十里 田中縣在田中縣南十里 田中縣在田中縣南十里

松村寺 松村寺在松村縣南十里 松村縣在松村縣南十里 松村縣在松村縣南十里

一 廣南寺 廣南寺在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里

一 廣南寺 廣南寺在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里 廣南縣在廣南縣南十里

御茶屋番足輕

木室与八

一 鹿嶋長嶋之渡無御滞御渡船川向鹿嶋役〃出張

並箒引御先払等出ル、唐嶋之渡トモ云

一 御泊濱御茶屋へ夕七ツ時頃御着被遊候、御宿礼

金百疋被下之

御茶屋番

犬塚弾兵衛

一同所へ左之御方〃様方御旅中御見廻として御目錄之通
御使者を以御到来

一 鮮魚一折三 マナガタ

学四郎様 御舫二而

丹波守様

御使者

相良源左衛門

一 右同断として御到来

一生御肴一折壺鱸 御篤様方

御使者

並木兵右衛門

一 右同所江左之人〃伺 御機嫌として参上

田中源右衛門

松村三郎太夫

明方以欽稿本

丁十一日

一 朝云詩法所云漢卿費筆

一
御
休
矣
若

一 卿休矣良室座
中入 銘而即之

一 采茶歌方也 終焉古也

司馬文正公集卷之四

上
邪

公父

少壯

萬江河原治

一
寒 楓 葉 臺 柳 子 城

留陽江心亭
公之南來

一 予屋裏に於て此の如く坐すべし

學之

下川 芳子

並木兵右衛門

木庭右膳

一明朝六ツ時御供揃と被 仰出之

同十二日 晴

一今朝六ツ時御供揃ニ而濱御発駕被成候

一御小休 矢答

一御休 多良御茶屋江四ツ時御入、頓而御立

一同所へ高来郡方罷出、役〃罷出居候間相応之

御用も御座候ハ、被仰付候様申上引取

郡方

田崎弥一兵衛

公文四郎右衛門

下郡代差次

片田江阿源治

一御小休 楓ノ木 左山花 獅子塔

一御泊湯江御茶屋江八ツ時過御着被遊候

一御茶屋番江為御宿礼金百疋被下之

御茶屋番

下川五郎兵衛

芦塚左兵衛

両人之由

市井に於て
 此の如き
 人々を
 見るに
 可なり

明神宗皇帝御製

日十
子
止

一
新方州
江
平厚
家
新
長

一 伊豆 伊豆山 けろく雷 西水村 ありし居金

一 讀卿休在揚寺心湖卿入金瓶卿三

日長海雲寺後山佛心亭
石上石

穀
新
三
元

漢代

右行接授便果手抄所

張
源
云
子
牙

一
女
務
事
以
為
家
凡
事
至
之
一

一、食後消食得之山古受

一 叩頭上無塵史大才叩頭為誓

一右同所江諫早豊前殿方使を以御旅中御見廻且相応之
御用等も御座候ハ、被仰付候様有之御答御相応

使 中村八郎太

一明朝六ツ時御供揃と被 仰出之

同十三日 晴五ツ時頃より雷雨、

同半頃方雨止

一今朝六ツ時御供揃ニ而湯江御茶屋御発駕被遊候

一御小休 深井、此間ニ而雷雨、西永田村前田十兵衛宅

一諫早御休、安勝寺へ四ツ時御入同所頓而御立

一同所江諫豊前殿方使者御通行ニ付御見廻として

左之通御到来

一鰯一折二尾

使

蒲池鋤之助

一右ニ付御挨拶御使同所ニ而相済

取次

野添兵太夫

一安勝寺江為御宿礼金百疋被下之

一昼後御小休 貝津 久山 古賀 藤店下

一御泊矢上御茶屋江夕七ツ時御着被遊候

一同所江諫豊前殿方御見廻使を以被申上候

使

高嶋六右衛門

一為御宿礼金百疋被下之

御茶屋番

橋本次右衛門

一佐嘉受役所並御年寄方へ無御滞御旅行今夜

矢上御止宿被成候段十太夫方宿継ニ而書状出ル、

尤長崎表へは足輕轟木定蔵被差越候

一明朝七ツ時御供揃と被 仰出之

同十四日 晴

一今朝七ツ時御供揃ニ而矢上駄同半頃より御発駕
被遊候

一御小休 日見峠茶屋

一長崎大黒町御屋鋪江朝五ツ時御着被遊候

御下乗其外跡方之通

一御着之使者を以御目錄之通御奉行へ被差送候

一土方出雲守様江

御使者 石丸奎

此書是書是動家
此書是書是動家
肥者居休動家
南者居休動家
此書是書是動家
此書是書是動家

此書是書是動家
此書是書是動家

此書是書是動家
此書是書是動家

一 此書是書是動家
此書是書是動家

此書是書是動家
此書是書是動家

分教家

此書是書是動家
此書是書是動家

弥御堅固御在勤被成

珍重存候、今般松平

肥前守名代御番所為見廻

当表罷越候二付、以使者

御太刀一腰・御馬代目録之通

致進覽之候由

一右御着御届聞番方被申達候

一御出之砌桜馬場江御奉行より御使者有之候二付

右御挨拶、且御使者之人江金三百疋被下之

但聞番より取計被申候

御使者

小林三郎右衛門

一御着之御祝儀として御奉行方御使者有之御挨拶

御本方方有之候由

小林三郎右衛

一御使者

土方出雲守様

取次 後藤五郎太夫

今般為

御名代御道中無御障今日当所

公儀進呈物に不意に引入

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

公儀御機嫌より及御覧に

被成御着、珍重奉存候、将又

公儀進達物二付、不念之儀有之引入

罷在候二付

公儀御機嫌御伺之儀及御断候由被申

置候

一御奉行所江押付御出可被成候間、何時頃可然哉之旨

聞番方申込被置候末、御徒士使二而御時分申来候二付

早速御供揃二而九ツ半時頃立山御出被遊候、

御面談其外跡方御出之通、御供頭兩人麻上下御廉番

御供目附也

御帰邸八ツ時頃

弥御堅固被成御在勤

珍重存候、最前如得御意候

松平肥前守名代為御番所

見廻罷越候、此段為可申

達遂参候

右者御直勤御口上

一御出

土方出雲守様

弟康人三

為

此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅
此後南朝志以行何宅

此後南朝志以行何宅

此後南朝志以行何宅

此後南朝志以行何宅

此後南朝志以行何宅

此後南朝志以行何宅

此後南朝志以行何宅

此後南朝志以行何宅

此後南朝志以行何宅

為

御名代当所御着被成候ニ付役宅被成

御出、私安否預御尋忝仕合奉存候、右

御礼、将又明日御番所御見廻後御発駕

被成候段、珍重奉存候、乍略義御暇乞

旁遂参候由

被仰置候

一鍋嶋日向殿為伺 御機嫌被罷出候ニ付御逢被遊候

尤麻上下着御仕成跡方之通

殿様二者御肩衣也、茶多葉粉無シ

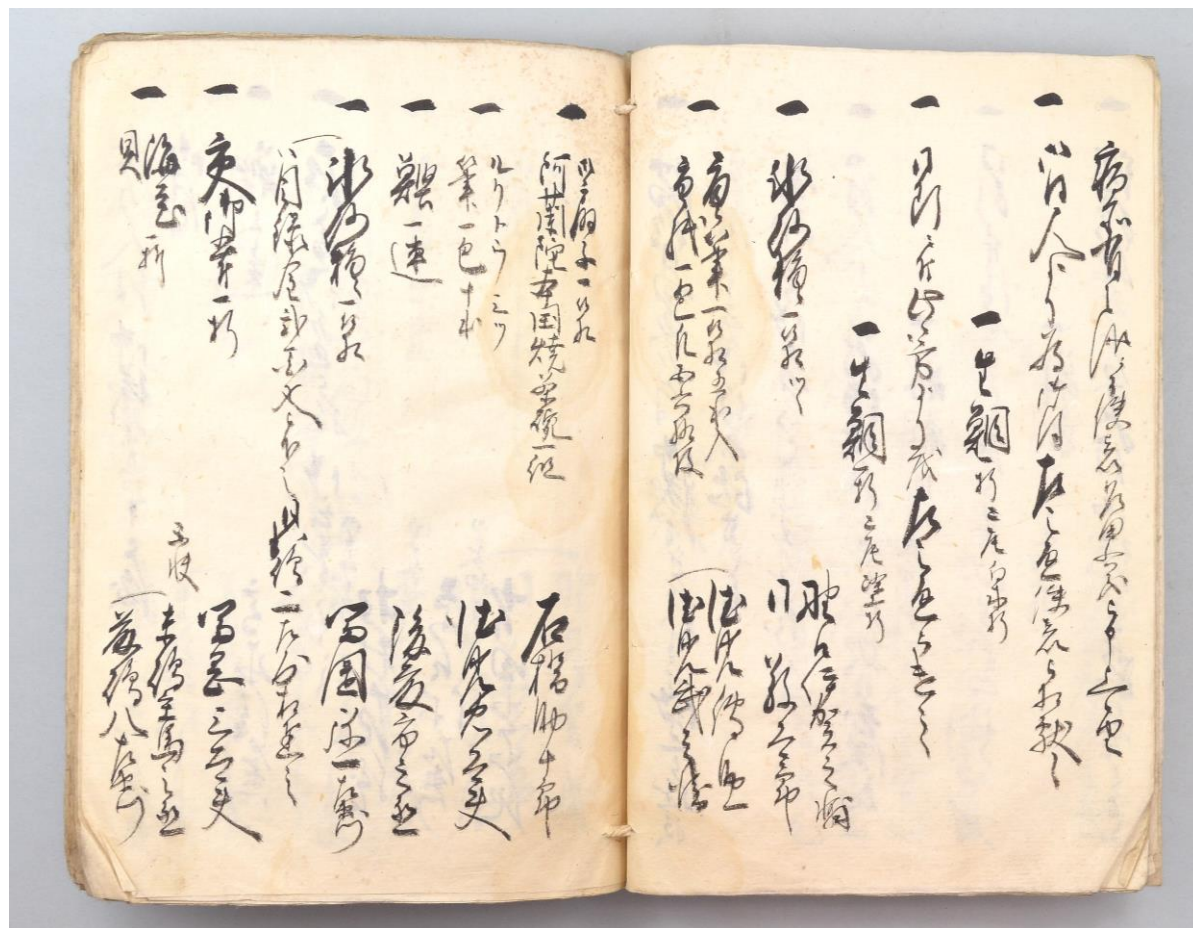
一御同人より為御伺左之通被相献候、尤使を以

一鮮鯛一折 二尾白木折

一同断ニ付從此御方も左之通、御使ニ而被遣之

一鮮鯛一折 二尾塗折

一鍋嶋孫六郎殿為伺 御機嫌被罷出筈之处



病所有之趣ニ而使を以乍略義被申上候由

一御同人より為御伺左之通使を以被相献候

一生鯛一折 二尾白木折

一同断ニ付此御方よりも左之通、被遣之

一生鯛一折 二尾塗折

一氷砂糖一箱ツ、 野口伊賀之輔

同敬太郎

一唐筆一箱五本入 徳見傳助

唐紙一包凡五六拾枚 徳見武兵衛

一御扇子一箱

阿蘭陀本国焼茶碗一組 石橋助十郎

一ルリトウ三ツ

筆一包十本 徳見忠太夫

一鯉一連 後藤市之丞

一氷砂糖一箱 富岡弥一左衛門

御目錄金貳百疋被下之、日出嶋二左衛門相達之

一交御肴一折 富岡三太夫

一海老 不快 東嶋主馬之丞

貝 一折 藤嶋八左衛門

方人外中儀集末後

難上達

高少達集

后之方外中儀集末後

松村氏集

古田氏集

後
御月山集末後

日新集
山氏集

後
御月山集末後

平石利集

之別集
御月山集末後

難綱集

右集
御月山集末後

右同人伺 御機嫌其末被渡

御目

一 鯉 壺連

高木清右衛門

一 左之通御逢被遊 御言葉被下之

御年寄

松村左膳

聞番

原口弥左衛門

御進物方

有田小所化

被渡

御目御言葉被下之

野口伊賀之輔

同敬太郎

徳見武兵衛

一 御扇子一箱

平石利右衛門

一 過刻鍋嶋日向殿江御答礼として御肴被差送候、

御請として用人使川嶋又太郎を以申上候

一 鮮鯛一折充

高嶋作兵衛

高嶋八郎兵衛

右者聞番方迄差出候由ニ而御納戸へ送り来候

ニ付、末永権六より上ル

一 海

神代

三才記

長江と云ふ事 古より大城一帯

一 海 一 陸 一 運

一 海 一 陸 一 運

一 海 一 陸 一 運

一 海 一 陸 一 運

一 海 一 陸 一 運

一 海 一 陸 一 運

神代

三才記

一 海 一 陸 一 運

神代

三才記

神代

三才記

神代

一 海 一 陸 一 運

一御使者

御代官 高木作右衛門様

御使者 大城一郎

左之通御到来ニ付、右御答礼として交御肴

一折塗御使者を以被差送候、豎目錄白木折ニ而到来

一鯉一連

一御内〃相献度由ニ而左之通聞番原口弥左衛門迄

差出候ニ付同人より為持来候

一唐紙壺束 高嶋作兵衛

一明朝六ツ時御供揃と被 仰出之

一鮮鯛一折 長崎聞番

御鑓荒柄式本 原口弥左衛門

一左之人〃御着座之御祝儀、且伺御機嫌有之

御廣間御取次

兼康大之進

後藤五郎太夫

石井彦右衛門

御蔵元役御納戸兼

古山清兵衛

同十五日 夜前〆風雨

一今朝六ツ時御供揃ニ而五ツ時頃より御乗船

右...
...
...

西泊 戶町

右...
...

...
...

...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

左之通御巡見被遊候、御本船紅梅丸、御 差添
鍋嶋日向殿・松村左膳同人ニ而御向〃西泊之方へ罷出
居候趣、今朝申上候、御船頭北村庄太夫

西泊 戸町

右之外者風波強有之候ニ付御船中より御見流ニ而
御巡見相濟

鍋嶋孫六郎殿

一御上り場ニ而大番頭○始各御目見

一両御番所ニ而者大番頭番頭被 召出御番方
猶又無疎様可入念旨御達被遊候、其外諸中
跡方之通

一御船割並御船乗組等之儀御状方記録有之
ニ付略之

一右御巡見相濟五ツ半時過御帰邸被遊候

西泊番頭

鍋嶋舍人

戸町番頭

中野数馬

一鍋嶋日向殿 御巡見相濟候ニ付御祝儀伺

水鏡録
...
...

一 香合二

石標中

一 中...

東...

一 龍眼...

東...

一 店...

秋上...

内...
...
...
...
...
...
...

御機嫌旁参上有之、鍋嶋孫六郎殿ニも参上

有之筈之处、病所ニ付乍略義使を以御祝儀御伺

旁被申上候

一香合 一箱

石橋助左衛門

一御扇子 一箱三本入

森長之丞

生小鯛一折五

一龍眼肉 一箱

森郊之輔

一左之人数御廣間寄附之間御襖際並居御目見

名披露、奏者伊東七兵衛肩衣着、何も御扇子一箱ツ、
献上有之、金貳百疋ツ、被下之

内藤忠二兵衛

村上弥兵衛

小沢伊平太

吉野七三郎

江上門十郎

森長之允

石橋助左衛門

品川順左衛門

桑原新右衛門

御扇子一箱ツ、

献上有之

廣瀬仲悦

長門屋徳太郎

盛田七兵衛

蘆田治兵衛

一御立之節為御暇乞御中ノ口脇白洲ニ而御目見

藤嶋八左衛門

徳見忠太夫

田中九十九

野口伊賀之輔

渡瀬奎五郎

淡路屋与左衛門

表御門内
御目見名披露

盛田七兵衛

蘆田治兵衛

長門屋徳太郎

一長崎聞番原口弥左衛門江左之通ニ被為
拝領候、川副又右衛門相達之

一御出崎ニ付御目録之通金三百疋

一御勝手方彼は御世話申上且献上物等旁ニ付

御目録之通金千五百疋被下之

一 右諸事御手数相済八ツ時頃より御発駕被遊候

一同断ニ付聞番其外御着之節之通御玄関前

白洲罷出御礼申上候、名披露なし

一 御奉行所へ為御暇乞御使者を以御巡見相済候ニ付

則御発駕被遊候段、野口伊賀之輔勤之

一 桜之馬場江御奉行より御使者有之候ニ付、右御使者江

金三百疋被下之、聞番取計之事

一 長崎より御発駕掛町内諏訪社へ御参詣被遊之旨、最前

被 仰出置候処、俄ニ風雨ニ付御参詣御延引

一 御小休 日見峠茶屋

一 御泊矢上御茶屋江夕七ツ半時頃御入

一同所江諫豊前殿より使を以、長崎表首尾能

被相済之、御歛且御用等も御座候ハ、被仰付度旨使

高嶋

六右衛門を以被申上之

一 明朝六ツ時御供揃と被 仰出之

同十六日 雨

一 今朝六ツ時御供揃ニ而矢上駄御発駕被遊候

中休 喜久山 海

海 中休 喜久山 海 中休 喜久山 海

中休 喜久山 海 中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

中休 喜久山 海

一 御小休 古賀 久山 海津

一 諫早御休安勝寺へ九ツ時前御入、頓而御立、同所江
御宿礼金百疋被下之

一 同所江諫豊前殿より御旅中御見廻使を以被申上候

使 蒲池鋤之助

○年宮

一 昼後御小休 深海

一 御泊湯江御茶屋へ八ツ半時御着被遊候

一 同所へ諫豊前殿より使を以長崎表無滞被相済候

御歛且御用等も御座候ハ、被仰付度旨使中村八郎太

御茶屋番 西尾寛吾

一 明朝六ツ時御供揃と被 仰出之

同 十七日 曇夕晴

一 今朝六ツ時御供揃湯江御発駕被遊候

一 御小休 獅子塔 左山花 楓ノ木

一 御休多良御茶屋、四ツ時過御入、頓而御立

一 昼後御小休 矢答

一 御泊濱御茶屋江八ツ時過御着被遊候

一 大なりと云はれども、
中々様様と云ふは

丹波守殿

古くより、
いふとあるなりと

於島根

大なりと云ふは

丹波守殿

大なりと云ふは

丹波守殿

丹波守殿

丹波守殿

丹波守殿

一 於島根、
丹波守殿、
中々様様と云ふは

一右同所迄御親類御家老番頭諸役〃より書状を以
伺 御機嫌被申上候

学四郎様

丹波守様

右之御方〃様より御旅中御見廻御使者御到来
御答御相応有之

御使者 並木市之丞

於篤様より

右同断之处御相応之御返答

御使者 並木兵右衛門

左之人数伺 御機嫌として参上

田中源右衛門

高松九郎右衛門

並木兵右衛門

木庭右膳

一於篤様より濱御止宿まで御内〃御使津嶋女を以
被仰進候、久〃二御面談被成度思召候間、明朝
御出立掛中川新御茶屋江御立寄被進候様

華月...
何...
...

一 深...

丹...
...

一 浅...

一 浅...

...

一 浅...

一 浅...

...

...

...

...

...

...

...

...

御案内ニ付此御方様ニ而も御同様思召候条
何様御出御面会被成之旨御相応之御返答
右御使へ左之通被為 拝領候

一 御酒肴 二種

一 丹波守様江左之通長崎為御土産御使者を以

御篤様

被進候

一 御樽 一 白木

一 御肴 一 折 塩鯛二尾塗折

一 御子様方へ左之通同断として被進候

一 御菓子料 百疋

一 氷砂糖 一箱

右包御のし添

御料理御酒被為 御使者麻上下勤 岩松兵左衛門

拝領候由 取次 小川忠右衛門

一 先日濱御茶屋御止宿之砌左之御方様より

御使者を以御肴一折ツ、到来ニ付右御挨拶をも

被仰進候

御使者

右同人

江戸参府 御役所御
主印 市役

丹波 市役

丹波 市役

一 丹波 市役 御役所御

江戸 十八日 市役

一 丹波 市役 御役所御

丹波 市役 御役所御

丹波 市役 御役所御

一 丹波 市役 御役所御

丹波 市役 御役所御

川 市役

丹波 市役

丹波 市役

一 丹波 市役 御役所御

丹波 市役

丹波 市役

江戸表ニ而御挨拶出候由

学四郎様

丹波守様

御篤様

一明朝六ツ半時御供揃と被 仰出之

同十八日 晴降懸ケ

一今朝六ツ半時御供揃ニ而御時分御案内申来候ニ付

則御出中川新御茶屋江御立寄御面会被遊候

御熨斗・御茶・多葉粉・御菓子上ル、同所頓而御立

殿様御旅服之俣御面談、御供御用人御側頭御医師同断

一於篤様左之人数被召出御目見御言葉被下之

川副又右衛門

日出嶋二左衛門

原口宗益

一右御茶屋江左之人々相詰被罷在候ニ付、此御方より

御酒料として正金百疋御内〃被下之

並木兵右衛門

小川忠右衛門

新也

一 廣府府中維新市八并排以金

一 柳林 龍主作

一 六角柳林 平屋 中事所 八 柳林

一 六角包 五 金 五 五 五

一 六角江 五 柳林 五 五

一 六角柳林 五 五 五 五

一 夕 五 柳林 五 五

一 六角柳林 五 五 五 五

一 六角柳林 五 五

一 六角柳林 五 五 五 五

一 六角柳林 五 五

一 六角柳林 五 五 五 五

御附女中

一 鹿嶋御領内御往来共箒引御先払川役人等出ル

一 御小休 唐嶋渡無御滞御渡船

龍王峠

一 六角御休御茶屋へ四ツ半時頃御入、頓而御立

一 御茶屋番へ金子百疋被下之

一 六角江無御滞御渡船

一 昼後御小休 小坂 三岳寺 門前

一 夕七ツ時 御着座被遊候

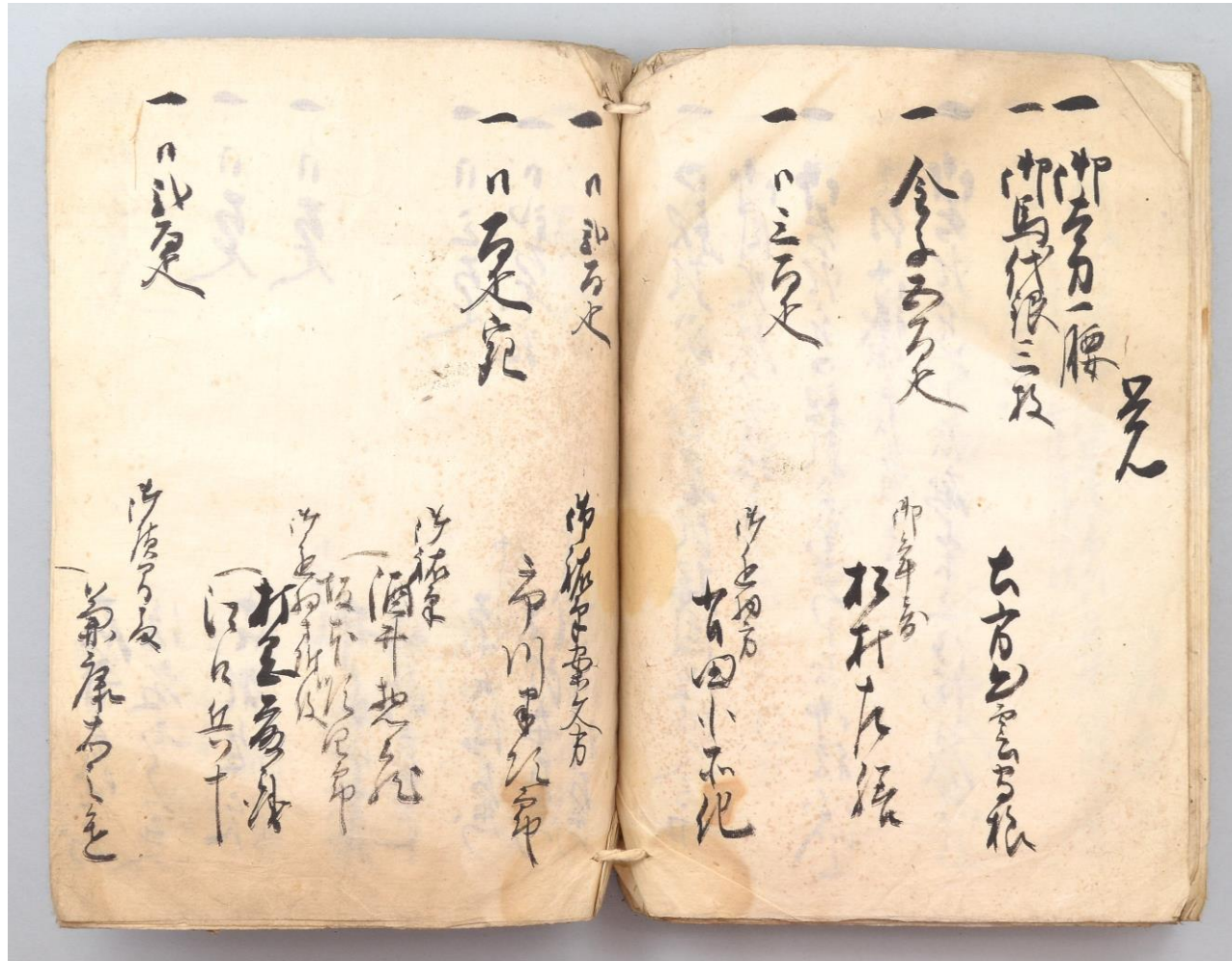
一 御親類御家老番頭桜岡詰役人侍切

御目見如例名披露

一 御着座ニ付御親類御家老いづれも御祝儀申上

且伺 御機嫌をも有之

一 御着座ニ付いづれも麻上下且御酒拝領有之



覚

一 御太刀一腰

一 御馬代銀三枚

一 金子五百疋

一 同三百疋

一 同貳百疋

一 同百疋宛

土方出雲守様

御年寄 松村左膳

御進物方 有田小所化

御祐筆案文方 市川半次郎

御祐筆 酒井惣藏

坂本順四郎

御進物方 附役 村岡藤兵衛

江口兵十

御広間番 兼康大之進

一同貳百疋

一
日
是

一
日
是

一
日
是

一
日
是

石井
後
方

古
方

升
方

東
方

法
方

法
方

法
方

法
方

法
方

法
方

水
方

一同百疋	石井彦右衛門
一同百疋	後藤五郎太夫
一同百疋	古瀬俊悦
一同百疋	井手宗甫
一同百疋宛	副嶋良巴
一同三百疋	原口弥左衛門
一同三百疋宛	郡目付
	江頭安左衛門
	書役納戸
	古川利左衛門
一同百疋宛	御記録方
	諸嶋正次
	御納戸下役福田作太夫
	御修理方小奉行
	松尾吉十
	御門番四人
	古賀権六郎
	平石利右衛門
	江越壮右衛門
一同三百疋	水方

ハニ更

沙船の便後
野中より更

ハニ更

品川店より更
野中より更

浪沙

中供新市
浪沙より更
中

浪沙

平石利金
浪沙より更

ハニ更

平石利金

浪沙

浪沙より更

ハニ更

浪沙より更
浪沙より更

一同百疋宛

御船行儀役

野中善太夫

御船頭 品川庄太夫

浅行御召船

舸子中

一同貳百疋

御供船舟頭

役者惣舸子中

一銀貳両

御家老船 船頭江

一同壹両

御用人船 右同

但此節彼は御世話申上候付別段

一同百疋

平石利右衛門

一同三百疋

平石利右衛門

右者十太夫殿より宿札

此廉金貳百疋十太夫殿より宿札同百疋彼は御世話

申上候ニ付御同人より別段被差送候由ニ付別御書宣筋

一銀貳両

右同人悴江

右同人より

一同五両

江越壮右衛門

右者川副又右衛門より宿札

一 今より五足

東の山麓

右の山麓より大なる谷に下る路は之を御所と云ふ

一 五足

吉川利家

一 五足

新成

一 五足

高橋伝左
より又伝余

一 五足

森村
松尾

河原田

村上

小澤

高橋

江上

丹波

赤松

石川

一金子千五百疋

原口弥左衛門

右者御勝手方之義御世話申上候御挨拶且献上物之
御挨拶旁也

一同五百疋

古川利右衛門

御勝手方御世話申上候御挨拶

一同百疋

願成寺

一同三百疋宛

高嶋作兵衛

高木清右衛門

一同貳百疋宛

森郊之進

林猪三太

内藤忠次兵衛

村上弥兵衛

小澤伊平太

吉野七三郎

江上門十郎

野口敬太郎

森長之允

石橋助左衛門



右者献上物等仕候付跡方之畢竟被為
拝領候也

石橋助十郎

品川作左衛門

桑原新右衛門

岸 八助

一同千疋

野口仁左衛門

一同三百疋

徳見傳助

一同五百疋

徳見武兵衛

一同百疋

廣瀬忠悦

一同百疋

油屋 七兵衛

一同貳百疋宛

郡目附

古川太左衛門

抱夫方

岸川彦兵衛

此節御往来御付廻仕人馬之義御世話仕候付
被為 拝領候也

一同百疋宛

鶴田治平

淡路屋与右衛門

一 世更

おろしきり終る

漢書
漢書
漢書
漢書

一 是

日産

改定

一 群類

高小

一 日所

漢書

おろしきり終る

一 類

漢書

おろしきり終る

淡路屋徳兵衛

渡瀬猶五郎

長門屋徳太郎

富岡弥一左衛門

一同貳百疋

右者御肴献上二付

一同百疋

日雇頭 政右衛門

一鮮鯛一折二

高木作右衛門様

一同一折三

鍋嶋孫六郎殿

右者御肴被成御到来候二付為御答礼

被差送候

一鱸一折

諫豊前殿へ

右同断御帰之上被差送候

